

INFORMATION

春の法要のご案内

(共同墓地・ペット墓地
合同法要)

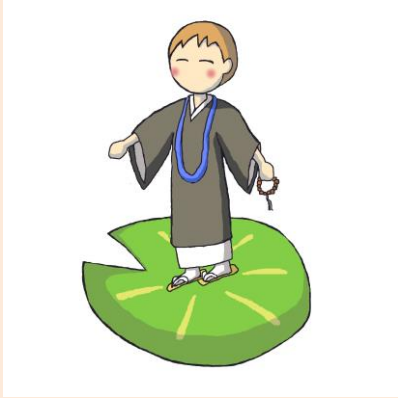
日 4月14日(日)

於 徳泉寺本堂

13時 勤行・法話
茶話

春の法要のご案内

年に一度の共同墓地と
ペット墓地の合同法要を
行います。共同墓地・ペ
ット墓地のご契約者に関
わらず、どなたでもご参
詣いただけます。



境内の花々

同朋会コーナー

住職法話抜粋『弔(とむら)うこと・悼(いた)むこと』

三月同朋会より

町探検などでお寺を訪れた子ども達に「お寺に行ったことはありませんか。」と尋ねると「お墓参りやご法事で行ききました。」と返事があります。これを聞くとお寺は亡き方を訪ねる場所であるのだと感じます。

「弔(とむら)う」とは人の死を悲しみ悼むこと、死者の遺族を見舞うこと、とあります。また「訪」の字を書いて「訪(とぶら)う」とも読みます。亡くなった方の死を悲しみながらその人を「訪ね」ていく、それが「弔う」ということなのでしょう。そして「悼(いた)む」とは人の死を悲しんで何も手につかない状態です。これは「痛む」と同じ音を持ちます。「悼む」ことは心が痛むこと。その痛みを抱えながら、亡き人に私の姿を聞き、私たちの身がどういふものであるのか尋ねていくのでしょうか。

前住職法話一部抜粋『歎異抄 まとめ』より

「救い」とは薬になることではありません。救われると薬になるように思っていますが、そんな麻薬を飲むような話ではないのです。そうではなくて、苦難を逃げずに受けその中で生き抜く力が生まれる、自分の腹が決まるということなのです。阿弥陀仏は私たちに「本当のあなたを生きますか。いろいろな方と仲良く手をたずさえ、生き生きと生きていきたいと願っているあなた自身の願いに気づいていますか。」と問いかけてくれています。その「あなたが生き生きと生きていきたいと願っていること」を実現させることこそが阿弥陀仏の本願であり、お念仏となつて私の口から言葉となつて出てくださっているのです。

四月の同朋会

日にち 四月十三日(第二土曜)
時間 十三時～十六時
場所 徳泉寺同朋会館
持ち物 数珠 勤行本
茶菓代 五〇〇円
どなたでも参加できます

『徳泉寺報』後記
桜の季節がやって
きました。この寺報
が届くころには徳泉
寺桜も見ごろを迎
えています。暖かな日差し
を感じながら、ぜひ
今年の桜を愛でに
お出かけ下さい。